

足利工業大学後援会報

第53号

発行

足利市大前町268-1

足利工業大学後援会

ご挨拶



足利工業大学後援会 会長

前原 剛

足利工業大学後援会会員の皆様におかれましては、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

本会の目的は、学生達の学生生活を守り支援し援助をすること、また、大学教育に理解を深め、施設、設備の充実、改善のため協力することです。この目的を達成出来るように年約六回の理事会を行い活動をしています。

学生達への支援の内容として、研究活動、クラブ活動、学生自治会活動、大学祭などの援助、また、就職に関する各種ガイダンスや、情報資格試験、各種キャリア資格試験などの支援、一〇〇円朝食サービスなどの補助などを行っている

ます。昨年の、中国・米国学

今年度は、上海万博や北京を見学する中国学生研修旅行を計画しています。

後援会会員の皆様に大学を見ていただきたい、大学を知っていただきたいと思ひます。後援会の総会では、後援会の事業報告、決算報告など、会員の皆様にご審議していただいております。後援会は、総会が年度の切り替えであり、新年度のスタートとなります。教育相談会には、単位の取

得状況や学生達の生活の様子などを知る為にもぜひ参加していただきたいと思ひます。そして、学生達の主体により開催されます学園祭「わたらせ祭」があります。学生達の日頃の研究発表または、クラブ、サークル等の活動発表や様々な催し物など、学生達の生き生きとした笑顔を見るのも楽しみです。

この三つの事業は、後援会、大学、学生、それぞれが主体となる、大きな事業です。ぜひとも会員の皆様には、参加し見学していただきご意見ご感想を後援会までお願い致します。より良い後援会作りには皆様の御協力をよろしくお願ひ致します。



長期にわたり、後援会に御尽力を頂きました。心より感謝いたします。大変ありがとうございました。

《後援会退会役員》

- 副会長：高橋 良治
- 理事：川岸 淳
- 理事：大木 尚
- 理事：長谷川照二
- 理事：渡邊 美賀
- 理事：品川 美枝
- 理事：津久井良行
- 理事：日座 勇

(敬称略)



後援会総会 (役員紹介)

大学の活性化と「第二の開学」

足利工業大学学長

牛山 泉



創立以来四十三年目を迎えた本学は、さらなる発展のため「第二の開学」と銘打って、

学科の再編に取り組んでおりますが、社会の要請にこたえる大学としての存在意義をより確かなものにしてまいりたいと願っております。後援会の皆様方からはさらなるご協力をお願いしたいと思います。

さて、いまの日本は政治も経済も、そして教育も完全に混沌としております。特に教育では、二十年ほど前の大学教育の大綱化以降、教育上の規範がなくなったことから種々の問題が顕在化してきております。本来、大学はそれぞれの役割に応じて、人材育成のために大学における教養モデルを作るべきであると思えます。

そこで本学は、今こそ建学の

な意識と実力を持つ学生を育ててゆくことを目標としております。そのためには、どんな学生諸君にも、それぞれ固有の力が備わっておりますので、本学の特徴である少人数教育による人格的ふれあいを通じて、学生諸君の潜在能力を最大限引き出してあげたいと願っております。これにより「人間力豊かな、心あるエンジニア」の育成が可能となります。

近年、入学する学生諸君の価値観も学力レベルも多様化し、

”本学の足跡“と”キャンパス生活の改善“

足利工業大学副学長

蟹江 好弘



足利工業大学は昭和四十二年に開学して以来四十三年が経過しました。この間に物語者を含み、実に多くの教職員が本学へ奉職され、その結果として学部卒業生一九、五八三

その教育指導も従来より困難を生かして各種製造業、建設業、IT産業、システムエンジニア、機械・建築等の設計業、コンサルタント、工業系商社、各種材料メーカー等に勤務し、中にはこれらの経営者として活躍している例も少なくありません。他方、研究者として大学等の教員になった者も沢山居ります。また公務員となつて地方公共団体や自治体職員として活躍している人も居ります。世間では十年二昔と言いますが、四十三年の時間の流れは正に二つの時代であり、本学は地方都市に建つ工業大学として、その役割を十二分に果たしてきたと言えましょう。

この間に大学当局はもとより、後援会や同窓会等のご支援をいただきながら、キャンパスも随分充実して参りました。教室棟、研究室棟はもとより実験棟、体育館、図書館、学生食堂、運動施設、その他の付帯施設整備が進み、開学当初とは比較にならない充実した環境となりました。

このような実績に立って、本学は研究教育を初めとする、な授業外学習時間が確保できるように、半期の履修登録単位数を二十二単位までとしています。通常、半期で十七単位を取得しないと卒業できません。そのため、これまでは単位を落とすことを考慮し、学生は少し多めに単位登録をしてきました。しかし、このシステムの導入によりそれができなくなり、すべての授業を真剣に受けなければ卒業できなくなり、結果として、

教務委員会では、今後とも学生の勉学意欲に答えられる充実した教育環境とするよう努力していきたいと考えておりますので、ご支援ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

フレッシュマンキャンプに向けた講話

大須 泰治

学生指導委員長



後援会様には、日頃より学心の福利厚生や学内の環境整備に多大なご支援を頂き、衷心より感謝申し上げます。学生指導委員会の活動は、

大学全体の改革に着手しようとしております。学科再編に関しては学長の言葉に述べられた通りですが、一方では学生達のキャンパスライフをより充実したものにしようと考えております。平成十九年には退学防止対策委員会を組織し、退学者を抑制するための方策を提案しました。この答申の中には、モバイル出席管理システムの導入による学生の出席管理、欠席者への指導体制が含まれこれは実現して現在活用されております。また学生個々人の把握のためにロングホームルームを導入したこと、水曜日の開講時間を減らして土曜日の午前中開講すること、

きめ細かな教育

教務委員長

莊司 和男



本学では、全学を上げて「きめ細かな教育」を実践してまいります。その具体例として、四

興味あるいは必要に応じて受講する選択科目があります。実際の授業に出席し、その内容を確認して決めます。一般には最初の授業の冒頭でガイダンスを行うのが普通ですが、本学では、授業開始日程前にそのガイダンス部分のみを行う短縮授業を実施し、短期間で履修科目を決められるシステムとしております。

また短縮授業期間中、午前中を短縮授業に当て、午後は個別履修プログラムを実施しています。個別履修プログラムは、一人一人の学生の個性にあった履修をバックアップするプログラムで、教員一人当たり四、六人の学生を担当し、個別面談を通して履修についてのアドバイスをしています。

本学は、平成二十三年度入学生から一学科五学系の新体制となります。また、それに伴いCAP制が導入されることになっていきます。CAP制というのは、一定期間内に履修できる単位を制限する制度です。具体的には、履修できる科目数を減らし、かつ十分

生活指導および助言・学生の課外活動の指導および助言の審議が基本となっております。更に経済支援（特待生・奨励生の選考、奨学金等）や学生の表彰に関する事柄など多岐にわたっています。学生指導委員会は学生が自らを磨き、且つ充実した大学生活を過ごすための環境を提供すべく側面から応援しています。

表題に掲げているフレッシュユマンキャンパスは平成九年度より教務委員会が主幹して、同日に新入生全員参加で行われています。

「フレッシュユマンキャンパスに向けての心構え」として学生指導委員長の講話を試みました。その時の内容は次の通りです。

一、フレッシュユマンキャンパスの目的

新入生相互および教員との親睦やコミュニケーションを深め、早期に大学生活に対応できるようにすること、団体生活を通じて基本的なモラル（道徳）とルール（規則）を体得することを目的としています。

二、友に交わるには

中国の葉根譚（さいこんたん）という処世哲学書の中に、「友に交わるには、須く三分の俠気を帯ぶべし。人となるには、一点の素心を存するを要す」の一節があります。これは、「友」との交際は損得を考えず純粹で、友が困ったり悩んだりしたときには、友のために何事も厭わず尽くす。」という義侠心を三分くらいは持ち合わせていることが必要であり、社会で立派な人物になるには、「平素も信念が堅固で心が正直

三、五常の徳（道徳の基本）

儒教には、「仁・義・礼・智・信の五常を乱らざるを徳とすべし」という教えがあります。これは世界四大聖人の一人である中国の思想家である孔子が「仁」と「礼」を説き、孟子の「仁義礼智」に漢の董仲舒の「信」が加わり、「五常」を確立しました。この「仁義礼智信」の五つの徳目を「五常」と言い、日本の武士道精神にも用いられています。また、かつての日本人はこの「五常」を道徳の基本としてきました。人はこの五つの徳を養わねばなりません。しかし、度が過ぎても足りなくても道徳に反しますので均衡（バランス）が大切です。

四、「継続は力なり」

遠くを望みて今を読み、一歩進んで足もと固め継続する

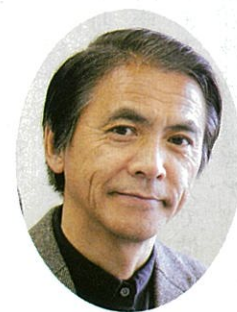
・智とは、物事を理解し是非・善悪を弁別する心や知恵。
・信とは、信用・信頼・信実・信義（約束を守り務めを果たす）。

本学で学ぶ学生には、同窓の交友関係を大切にすると共に「健やかな心と体」を手に入れて、有意義な学生生活を過ごしていただきたいと願っています。

就職内定率アップに向けて

就職指導委員長

和田昇三



日本はバブル崩壊後長い不況下にあるが、本学の就職内定率は九九・〇％（二〇〇八）、九三・四％（〇九）、八七・二％（一〇）と高く、この三年充分健闘してきたと思われる。

その一因として挙げられるのが当委員会の手厚い支援体制である。一例を示せば、一年次・二年次に対しても就職に関する講座を設けるなど、これからますます就職が厳し

くなる社会状況を考え、先手を打って対応してきた。また、三年次生には就業力を育成するための各種講座を設けるなど、率先して職業指導を進めてきた。その成果は、本講座の出席率のよい学生ほど早い時期に就職が内定し、しかも内定率が高いうちという結果となっており、われている。

しかし、本学の就職指導をもっとしても、昨今の雇用状

況の厳しさに勝つのは難しい。今年度の就職内定率は甚だ低く、六月末における内定率は一七・一％で、昨年の二六・二％、一昨年の四一・九％を大きく下回っている。新たな就職先の開拓を早急に始めて、夏休み明けには内定率の大幅アップを目指したい。

そのような中、二〇一一年度から文部科学省の方針により、大学生に就業力を身に付けさせるための授業「職業指導」が義務化される。この背景には、学生の就業意識の低下や離職率の高さがあり、職業指導を授業に取り入れることにより就業力を育成するというねらいがある。

前述のように、本学では既に「職業指導」を行っているが来年度からの「義務化」については現在検討中である。今まで行ってきた「自己探索講座」、「SPI対策講座」、「面接対策講座」等をもう一度見直し、さらに充実したカリキュラムとプログラムを構築し、真の就業力を身に付けさせた

指導講座への出席率が高いほど内定率も高いという結果が出ており、如何に学生を職業指導の授業に真剣に向き合わせるかが、私の重要な役目と考えている。

志望する会社へ入社できることは願ってもないことであるが、今年度は雇用状況の悪化で志望する企業へ行けない学生が多数ででくるかもしれない。全く気が進まなければ論外であるが、採ってくれる会社があるならばともかく入社することを勧めたい。会社は必要な人材として受け入れてくれたのである。

どのような職業であれ、与えられた仕事に精魂を傾け向き合っていけば、いずれその仕事为天与の職となり一生全うするに値する仕事となるに違いない。仕事とはそういうものではないであろうか。

◆平成22年度 教育相談会について◆

足利工業大学では毎年夏期休業期間を利用して、保護者の方に学生の実情を知っていただくことを目的とした教育相談会を開催しております。この企画は、本学の教職員が学生たちの勉強状況や成績等をご報告するとともに、ご要望・ご質問等のご相談に個別に応じるというものです。

ご多忙中とは存じますが、是非ご参加ください。また、できればご子息ご息女をご同伴くだされば、より一層の教育的効果があるかと思ます。

なお、教育相談会にご参加の際には、8月20日本学発送の保護者様宛、成績通知書をご持参くださいますようお願いいたします。

当日は就職に関する個別相談も実施しております。特に、3年次・4年次の保護者の方でご希望があれば、9:00~15:00の間に直接本学本館2階の就職課にお越しください。

教育相談会

平成22年9月12日（日）
会場：足利工業大学 学生ホール2階
受付時間 9:00~13:30

出席を希望される方は、7月下旬に送付しました「教育相談会のご案内」に同封の葉書をご返信ください。

就職個別相談

平成22年9月12日（日）
会場：足利工業大学 本館2階 就職課
相談時間 9:00~15:00

事前のお申込みは不要です。直接就職課へお越しください。

《9月12日（日）「スクールバス時刻表」》

大学発 足利市駅	行	東武足利市駅発 大 学 行	JR山前駅発 大 学 行
	7		
50	8		
45	9	10	20
55	10	05	15
	11	15	25
25	12	40	56
	13		
00	14	15	25
20	15		



平成21年度 足利工業大学後援会収支決算書

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

収入の部

(単位 円)

科目	予算額(A)	決算額(B)	差異(B)-(A)	摘要
前年度繰越金	5,147,349	5,147,349	0	
会費	33,500,000	34,025,000	525,000	1,361名分 (@25,000円)
雑収入	100,000	112,100	12,100	学生災害傷害保険移動返還金
計	38,747,349	39,284,449	537,100	

支出の部

(単位 円)

科目	予算額(A)	決算額(B)	差異(B)-(A)	摘要
1 運営費	3,200,000	2,532,382	△ 667,618	
会議費	1,500,000	1,272,300	△ 227,700	後援会総会・理事会等諸費用
事務費	300,000	280,000	△ 20,000	事務費一般
印刷費	400,000	187,530	△ 212,470	後援会会報印刷代・封筒代
通信費	1,000,000	792,552	△ 207,448	後援会総会通知発送費・後援会会報発送費・「AIT通信」発送費他
2 学生助成費	29,500,000	23,273,145	△ 6,226,855	
学生研究補助費	900,000	784,310	△ 115,690	卒業研究等補助
クラブ援助費	15,000,000	11,079,105	△ 3,920,895	クラブ活動援助費
学生活動費	6,800,000	6,515,400	△ 284,600	学生自治会援助金・大学祭援助
入学・卒業記念費	3,560,000	3,556,280	△ 3,720	入学記念集合写真費・卒業記念アルバム作成費
海外研修費	2,000,000	120,000	△ 1,880,000	U I S 参加学生への支援費
保険料	1,240,000	1,218,050	△ 21,950	学生災害傷害保険料
3 教育助成費	5,000,000	4,779,996	△ 220,004	
就職推進補助費	2,000,000	2,005,526	5,526	保護者のための就職応援ブック500部・資格支援費他
厚生事業費	500,000	368,000	△ 132,000	教育相談会慰労会費用
教育環境援助費	1,500,000	1,857,180	357,180	スクールバス購入代金の一部
その他の厚生費	1,000,000	549,290	△ 450,710	情報処理技術者試験補助・朝食補助他
4 慶弔費	700,000	455,000	△ 245,000	入学式献花代・学生香典他
5 雑費	100,000	0	△ 100,000	
6 予備費	247,349	0	△ 247,349	
7 次年度繰越金	0	8,243,926	8,243,926	
計	38,747,349	39,284,449	537,100	

積立金の部

(単位 円)

前年度繰越金	10,000,000
スクールバス購入代金	10,000,000
次年度繰越金	0

上記のとおり相違ありません。

平成22年3月31日

足利工業大学後援会 会計 田邊 美紀子

監査の結果、上記のとおり相違ありません。

平成22年5月15日

足利工業大学後援会 監事 柿沼 義人
監事 小野 幸作

学 事 歴

8月 5日～	夏期休業(9/12まで)	12月 8日	成道会
11日～17日	エコ休業期間(完全休業)		定期学生総会
9月 12日	教育相談会	21日	金曜日授業
13日	全学ガイダンス	22日	土曜日授業
	短縮授業(9/18まで)	23日～	冬期休業(1/10まで)
	履修登録期間(9/18まで)	29日～	エコ休業期間(完全休業1/4まで)
21日	授業開始	1月11日	授業開始
10月 8日	大学祭準備(全日休講)	14日	全日休講
	大学祭前夜祭	2月16日	涅槃会
9日～11日	大学祭(全日休講)	25日	卒業判定会議
12日	大学祭後片付け(全日休講)	3月18日	学位授与式

平成22年度 足利工業大学後援会役員名簿

	役職	氏名	所在市	学生所属学科	学年
1	会長	前原 剛	足利市	システム情報工	4年
2	副会長	周東 芳子	足利市	大学院	2年
3	副会長	須藤 陽治	佐野市	建築	4年
4	副会長	小野 幸作	足利市	建築	3年
5	会計	田邊 美紀子	足利市	都市環境工	4年
6	監事	柿沼 義人	佐野市	機械工	3年
7	監事	荒井 誠司	足利市	システム情報工	3年
8	理事	本島 孝文	足利市	電気電子工	4年
9	理事	田中 好司	太田市	システム情報工	4年
10	理事	松橋 昭子	伊勢崎市	電気電子工	3年
11	理事	塚越 直巳	高崎市	都市環境工	3年
12	理事	松浦 里江子	足利市	機械工	2年
13	理事	前原 牧子	桐生市	電気電子工	2年
14	理事	今井 幸子	太田市	建築	2年
15	理事	橋本 彰子	伊勢崎市	都市環境工	2年
16	理事	池澤 佳代	佐野市	システム情報工	2年
17	理事	今井 和男	太田市	機械工	1年
18	理事	萩原 雄司	桐生市	電気電子工	1年
19	理事	三田 康子	足利市	建築	1年
20	理事	渡邊 郁世	太田市	都市環境工	1年
21	理事	野村 馨子	下都賀郡	都市環境工	1年
22	理事	茂木 岳幸	桐生市	システム情報工	1年

平成22年度 足利工業大学後援会予算書

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

収入の部

(単位 円)

科目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	摘要
繰越金	8,243,926	5,147,349	3,096,577	
会費	30,250,000	33,500,000	△ 3,250,000	1,210名分 (@25,000円)
雑収入	100,000	100,000	0	学生災害傷害保険移動返還金
計	38,593,926	38,747,349	△ 153,423	

支出の部

(単位 円)

科目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	摘要
1 運営費	2,950,000	3,200,000	△ 250,000	
会議費	1,400,000	1,500,000	△ 100,000	後援会総会・理事会等諸費用
事務費	300,000	300,000	0	事務費一般
印刷費	250,000	400,000	△ 150,000	後援会会報印刷代 他
通信費	1,000,000	1,000,000	0	後援会総会通知発送費・後援会会報発送費・「AIT通信」発送費 他
2 学生助成費	29,700,000	29,500,000	200,000	
学生研究補助費	900,000	900,000	0	卒業研究等補助
クラブ援助費	13,500,000	15,000,000	△ 1,500,000	クラブ活動援助費
学生活動費	6,700,000	6,800,000	△ 100,000	学生自治会援助金・大学祭援助
入学・卒業記念費	3,500,000	3,560,000	△ 60,000	入学記念集合写真費・卒業生記念アルバム作成費
海外研修費	3,600,000	2,000,000	1,600,000	学生海外研修補助
保険料	1,500,000	1,240,000	260,000	学生災害傷害保険料
3 教育助成費	4,900,000	5,000,000	△ 100,000	
就職推進補助費	2,000,000	2,000,000	0	就職関連補助
厚生事業費	500,000	500,000	0	教育相談会関連費用
教育環境援助費	1,500,000	1,500,000	0	学内環境設備費
その他の厚生費	900,000	1,000,000	△ 100,000	情報処理技術者試験補助・朝食補助 他
4 慶弔費	700,000	700,000	0	入学式献花代・学生香典 他
5 雑費	100,000	100,000	0	
6 予備費	243,926	247,349	△ 3,423	
計	38,593,926	38,747,349	△ 153,423	

事務局便り

去る七月三日(土)に平成二十二年後援会総会を開催いたしました。八十組の会員の方にご出席いただきました。ありがとうございます。ご都合により、ご出席いただけなかった方や、また、疑問・質問やご要望などがおありの方は、後援会事務局の学務課(☎〇二八四一六二一〇九五〇)及び会計課(☎〇二八四一六二一〇八一〇)へご遠慮なくお問い合わせください。

また教育相談会が九月十二日に大学において開催されます。同日に就職個別相談も行われますので、三・四年次生の保護者の方は是非ご参加ください。今年度から、学生が学内の健康診断を受検した結果、再検査が必要とされた場合には、その学生の保護者へも同報告を郵送するようにしました。学生本人は最寄りの病院で再検査を受検することが必要ですが、保護者の方には、もし、この報告が届きましたら、親子間で、食生活や生活時間など学生生活をどのように過ごしているか話し合う機会を持つてもらえると良いと思います。